

「グリーンマップづくり」～ずっと残したい、僕と私の街の宝物探し～

日 時：2019年6月1日（土）9：30～13：00

実施場所：長久手市中央図書館及びその周辺

参加人数：小学生（未就学児の兄弟を含む）27人

主 催：長久手市

協 力：愛知淑徳大学交流文化学部准教授 小島祥美氏

愛知淑徳大学学生37名



事業概要

小学生と愛知淑徳大学の学生が市内を歩いて、自分のまちの好きなおとこ・直したいところを調査し、世界共通のアイコン（絵文字）を使って、地図「グリーンマップ」を作成しました。

事業内容

淑徳大学の学生の司会でイベントがスタート。4チームに分かれて、ジェスチャーでコミュニケーションをとるゲームを行いました。初めて会う大学生のお兄さんお姉さんを前に少し緊張気味だった子どもたちですが、一緒になって体を動かすことによって緊張がほぐれ、和やかな雰囲気となりました。



グリーンマップについての説明を聞いた後は、8つのチームに分かれ、チーム内で役割分担を決めます。準備ができたチームから、図書館を出発。チームごとに異なる区域内を散策し、アイコンを通じた発見を地図に記します。



この日は天候にも恵まれとても暑かったですが、子どもたちは元気いっぱい歩き回り、地域の生き物や植物たちを一生懸命に観察していました。



1時間にわたる散策を終えた後は、図書館に戻ってマップづくり作業を行いました。散策中に撮影した沢山の写真について、1枚1枚思い起こしながらコメントを書き込み、グリーンマップボードに貼り付けていきました。



マップが完成した後は、チームごとに発表会を行いました。子どもたちは緊張しながらも、散策をしていて発見したものや印象に残った出来事、グリーンマップづくりを体験してみて感じたことを報告し合いました。



最後には完成したグリーンマップボードをバックに、みんなで集合写真を撮りました。

今回のグリーンマップづくり体験を通じて、普段は気づかなかったような、新たな発見ができました。自分たちのまちのより良い姿を想像して、長久手にもっと愛着がわくきっかけ作りの一助になりました。



また、未来を担う子どもたちから長久手の環境についての意見を聞き、現在改訂中の長久手環境基本計画（2021年～2030年）の参考にするとともに、自分事として、まちについて考えるきっかけをお届けすることができました。

